

3 園評価書（指標）

令和6年度 園評価書

園番号 20 園名 静岡市立東新田こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
自分が好き、友だちが好き、心豊かで、たくましい子	たのしい・おもしろいがつながりあう	子どもたちは、気づきやひらめき、偶然の発見を試したり、楽しんだりしながらより面白くなるように身近な道具や素材を組み合わせて繰り返し試している 子どもたちは、自分と違った考えに気づいたり聞いたりしながら、自分の思いを言葉や仕草で伝えようとし、友達とのかかわりを楽しんでいる 子どもたちは、困った場面に会った時に、自分から言葉や仕草で周りに発信しようとしている	○子どもが興味をもっていることや遊びが広がるような素材や教材を用意することで、子どもたち自身で遊びを発展させ楽しんでいる ○今までの経験を結び付けながら、段ボール、トイレットペーパーの芯などの廃材、紙粘土、毛糸、どんぐりなどの教材や自然物を組み合わせ、自分なりに工夫して試したり楽しんだりする姿がみられる ●できないことがあると自分たちで考えずに、保育教諭に委ねて諦めてしまうことが多い ○自分の思いを言葉や仕草で伝えている。また、自分と友達の考えの違いにも気付き始め、友達と遊ぶことを楽しんでいる ●友達の思いを受け入れたり折り合いをつけたりすることが難しい子もいる ○子どもが困っている時に保育教諭がすぐ助けるのではなく、見守ったり考える時間を大切にしたりすることで、自分なりに言葉や表情、仕草で発信することが増えてきた ●職員が手を掛け過ぎしまい、困った時に言葉で伝えず、気付いてほしい雰囲気を出したり泣いたりすることが手段となっている子もいる	A	A	・廃材だけでなくどんぐりや葉などの自然物を使ってイメージしたことを形にしていた。家では、してあげられないことをしてもらっていると感じている ・劇場つっここの裏側の姿を今回見ることができその中でも「これやりたかった」と自分の思いを言うことができていた。また、ナレーター役の子が読む所がわからなく言葉に詰まると、他の子が紙を折り曲げて読む場所を教えている姿がみられた。担任の先生は、子どもの中に入らず見守る姿があった。 ・大人が待つということが大事だと感じた ・職員が子どもにも目指す折り合いをつける姿を考えたい	・教材や廃材などの見直しをし、歳児に合った環境を用意していく。そのためには、発達や理解や教材研究を深めていく ・保育教諭が仲立ちをし、互いの思いを受け止め、相手の気持ちを受け入れられるようにしていく。子ども同士が折り合いをつけることで遊べるようになってきた時は、保育教諭が過ぎず見守って待つことを大切にしていきたい ・子どもの思いを先回りせず、歳児や個々に合わせた折り合いのつけ方を職員間で理解し、自分で言える機会や発信しやすい聞き方をしていく。子どもたちが自分で発信できた時には、共感し認めていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 (3)環境を通して行う教育及び保育	園は、それぞれの年齢の発達や成長を捉え、職員同士がコミュニケーションを取らないが、園全体で子ども理解を深めている 園は、保護者からの連絡を、職員間で確実に伝達し合い、必要なことを的確に周知している 園は、気づきやひらめきがつながりあうように、遊びを深めることができる時間や場、教材や素材を用意している	○会議で子どもの姿を共有したり、公開保育や事後研修で年齢ごとの発達や成長を捉えたりして子ども理解を深めている ○職員同士コミュニケーションをとり、気軽に相談できる関係にあり、子どもの様子を伝え合っている ●会議に参加していない職員との情報共有の仕方をどのようにしていくかが課題である ○会議や朝の打合せで周知したり、登降園記録に赤ペンで記入やメモをはさんだりして、丁寧に伝達している ●保護者や担任以外でクラスに入ってくれる職員に対して伝えたつもりが伝わっていないなどの周知ができていないときがある ○子どもたちの気づきやひらめきを捉え職員間で共有することで意識も高まり、見通しをもって教材や用具を用意している ●朝園庭環境準備の時間を作るようにしているが、夏は暑すぎたり冬の園庭は風が強かったりして園庭で遊び込まず、園庭の活用が難しい	A	A	・学校では、タブレットを使って会議の情報共有している。自分の時間で、会議の内容を打ち込んだり確認したりすることができる。こども園でもタブレットを活用できるようになっていくを良い ・タブレット使用になって延長のお願いや迎えに行く人の変更など確認しながら行っているからえていると思う。担任にもきちんと伝わっている。データが残っているの、親との情報共有になっている ・事故報告書の件数が昨年の半分になったという結果が出ているので良いと思う ・見届けはすごく大事。すぐにできるわけではないので、声掛けをされて気づいてというので良いのではなか。こども園では、手洗いやうがいやの場面でも職員全員で見ていることがすごいと思う ・アンパンマンの会に参加している子のごく楽しそうな動画を見せてもらった。色々な療育機関があるので連携は大変だろうと思う	・様々な職員で午睡時間などを利用して気軽に話し合える場と時間を作っていく ・乳児会議に幼児職員が、幼児会議に乳児職員が会議に参加して連携を図っていく ・伝達の書類を精査し、大事なことや必要ないことが誰が見てもわかりやすいものにしたし、引き続き、登降園記録に伝達の記入を必ず行っていく ・時間を有効活用し、保育教諭の願いをもって教材や用具の準備ができるように、園庭活用や環境の話し合いをしていく ・ヒヤリハットの報告だけでなく、改善策の進捗状況を確認していく ・保護者には、コードモンでリアルタイムに発信し情報共有をしたり保護者と共に危機意識を高めていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、あと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリハットした出来事を記録、分析、改善策、検証を職員間で周知し、事故防止対策を行っている	○朝の打ち合わせボードに挟んだヒヤリハットを各クラスに印刷して配付することで、全体の周知につながり共有できている。また、ヒヤリハットの集計や傾向と対策をまとめ会議での報告や回覧をすることで、事故報告書の件数が昨年より約半分に減り全体の安全に対する意識が高まってきた ○近隣の公園のマップを作成し、危険箇所を保護者に伝えた ●ヒヤリハットの改善ができていくか確認していきたい	A	A	・見届けはすごく大事。すぐにできるわけではないので、声掛けをされて気づいてというので良いのではなか。こども園では、手洗いやうがいやの場面でも職員全員で見ていることがすごいと思う	・各クラス時間を決め、消毒や十分な換気を感じ感染症対策をしておく ・手洗いやうがいを丁寧に言うよう、声をかけ定着が来るまで見届けしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、毎日の健康管理（健康カードやタブレット）を行い、うがい、手洗い、消毒、十分な換気に対応している	○朝の開き取りやコードモンを活用し子どもの健康状態を把握することで、個別の対応ができています ○乳児組は子どもたちが触る壁や玩具を消毒したり、定期的に十分な換気を行ったりすることで、感染予防に努めている ●保育教諭の声掛けで手洗いやうがいを行っているが、保育教諭の見届けも最後までできていないため、定着できていない子もいる	B	A	・アンパンマンの会に参加している子のごく楽しそうな動画を見せてもらった。色々な療育機関があるので連携は大変だろうと思う	・アンパンマンの会やオレンジサロンの内容や療育機関の見学など見通しがもてるように年間計画を立てておく ・担当以外にもアンパンマンの会に携わるように計画をしていきたい
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人に合わせたサポートプランを作成し、アンパンマンの会での活動や担当者と会議等で話し合った内容を園全体で共有し丁寧に関わりをしている	○アンパンマンの会を2部制にし少人数で行うことで、一人一人が自分を出して、のびのびと活動できるようになった ○アンパンマンの会後、担当者会議を行うことで、支援方法や手立てへの理解ができた。職員会議でも支援の様子を伝えることで支援児担当以外の職員にも共有できている ●子どもたちが通っている療育機関が様々で、療育機関での活動や様子がわかりにくく連携や全職員と共有がしにくいことがある	A	A	・研修した後に模造紙にまとめてあることが良い。視点を捉えていることがわかる ・当番制で整理整頓を職員が行うようになり、意識が高まっていることは良いと思う。教材や用具を使いたければ使える回数は課題と捉えるほどそんなに多くないのではないかな	・事前研修に研修部以外の職員も参加できるように時間枠や体制に考慮し、公開保育の学びのポイントを共有していく ・気軽に保育や子どもの姿について話せるような機会をつくり、成長や発達について共通理解をしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園は、園務分掌リーダーを中心に各担当が見通しをもって企画をし、それぞれの分掌が協力し合い行っている	○各分掌のリーダーを中心にそれぞれ見通しをもって企画運営をし、職員をマネジメントしながら協力して進めている ●勤務時間が様々なため、職種が違う分掌の担当者と一緒に仕事を進めていくことが難しいと感じる	A	A	・子どもの活動が毎日配信されることで、迎えるに行かない家族にも園の様子が分かるという利点がある。今まではその場でポイントを見て子どもと会話していたので、これからは子どもと一緒に携帯を見て意識して声をかけるようにしていきたい	・年度初めに分掌ごとに顔合わせと役割分担の確認をして、見通しをもって企画運営を協力し合える体制を作っていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	園は、研修テーマ「一人一人の気づきに寄り添い探究心が高まるような保育教諭の援助」に向けて、保育実践と研究を重ねている	○教育課程や気づきの表に照らし合いながら資料を作成することで、歳児の発達をおさえやすくなった。各クラス1回ずつ公開保育を行い、研究を重ねている ○公開保育後、まとめの模造紙を休室や玄関に掲示することで、職員間や保護者と共有することができた ●公開保育や事後研修で一人一人の学びはあるが、職員間の理解度の差がみられるので、全職員が公開保育や事後研修に参加できるよう工夫していく必要がある	A	A	・タブレットを使用することで、職員の働き方改革につながってきている。時間短縮になりクラスの中で子どもの話をしたり共有したりする時間が増えている。保護者にもその良さをアピールしても良いと思う	・園にある教材や素材を見直し、どんなものがあるかを把握していく。片付ける場所を視覚で明確化して職員全員が元の場所に戻せる環境を作っていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、備品、道具、教材等の配置、保管、点検を適切に行い、日頃から教育・保育環境の整備に努めている	○月ごと教材庫や廃材コーナーの整理整頓をする担当を決めたことで、職員一人一人が綺麗に使う意識が高まった ○毎朝園庭の環境整備を行うことで、子どもたちの遊び出しが早くなった ●園内にある教材を使用した後、元の場所に戻していなかったり、足りない物を補充していなかったりして整備されていないことがある	B	A	・年長の子どもたちは、長田交流や地域との交流を楽しみにしている姿があった。他園で就学前が同じようなことも分かっているのだから来年も交流をしてほしい	・連携園や近隣園と一緒に交流の見通しがもてるように年度始めに交流計画を作成していく ・来年度も引き続きzoomやタブレットを活用しながら、年長交流を進めていきたい
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、日々の活動や遊びを通した気づきやひらめきのつながりあいや探究の過程をボード化、ホームページ、お便り等で可視化して伝えている	○連絡帳、ボードがコードモンで配信されるようになり、送迎にない保護者にも日々の姿や子どもの活動や遊びを通した気づきやひらめきが伝わるようにしている ●コードモンによる配信で保護者に見てもらっているか、保育教諭の意図が伝わっているかがわかりにくいので、伝わりやすい画面作りが必要だと感じる	A	A	・せきれい会は、子どもたちが年4回公民館に来て、せきれい会が2回園に行くことで交流を行っている。高齢者の方が同じ家や近くにならずに遊んでいると手を離さない子やずっと話しかけてくる子もいる。せきれい会の方も元気がもらえる交流になっているので、引き続き行っていきたい	・今年度は、公民館のちっちゃな作品展に0、1歳児の絵を展示し好評だった。地域との交流は年長が中心になるが、他の歳児もできることがないか検討をしていきたい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は、支部拠点園として公開保育や交流活動を計画、実施し、乳幼児期に育ってほしい姿について共通理解を図り意見交換を行っている	○長田地区公立5ヶ園がお互いの園と行き来したりzoomでの交流を行ったりすることで、子どもたちも職員同士もつながりをもつことができた。また、就学年の期待も高まってきた ○園長、副園長も長田地区公立5ヶ園のうち1ヶ園の公開保育に参加している。また、他の職員も他園の公開保育に参加したり、小学校職員が園を参観したりして、意見交換や他園の取り組み、子どもの姿を学び合う機会をもっている	A	A	・今年度は、公民館のちっちゃな作品展に0、1歳児の絵を展示し好評だった。地域との交流は年長が中心になるが、他の歳児もできることがないか検討をしていきたい	・今年度は、公民館のちっちゃな作品展に0、1歳児の絵を展示し好評だった。地域との交流は年長が中心になるが、他の歳児もできることがないか検討をしていきたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、勤労感謝訪問、地域行事への参加、せきれい会や連携園との交流、おしゃべりサロンの開催を通して地域との連携を図っている	○せきれい会や地域行事などを通して地域との関わりをもつことができた。子どもたちにとっても楽しい活動や良い経験の機会になっている ○おしゃべりサロンで園の子どもたちが歌や踊りを披露することで、園の子どもの様子を知ってもらったり、地域の方と交流したりすることができている ●昨年度より交流の回数は増えたが、見通しをもって連携園との交流を計画していきたい	A	A		